

長崎県松浦市との職員交流終了・・・

# 永田さん、 半年間お疲れさまでした!!



183日。僕が北海道福島町に暮らしていた期間です。32年の人生の中で一瞬ともいえる、この183日ですが、毎日が濃密な日々であり、この期間が過ぎるといふ事は、長崎県松浦市(旧福島町)より半年間の職員派遣交流を終える事を意味します。

暮らしに少し慣れてきた頃、山や森の木々が青く色づいてきて、北海道の短い夏の訪れを体感すると共に、夏の山の景色は長崎県と変わらない風景なのだなど故郷を少しだけ思い出したりもしました。おかしなもので、たった半年間の暮らしの中で、どうやら普段の『九州訛り』の中に『福島訛り』が混じってきているようで、長崎県の職場の人には「訛っている」と言われ、福島町の皆様には「変な訛り」になっていると言われ、どここの出身の人かよくわからない状態であります。

さて肝心の業務はというと、主にイベントの運営に携わらせていただきました。「殿様街道ウォーク」では仮装をして茶屋の店員役をやらせていただき、「女だけの相撲大会」では光栄にも行司の大役を務めさせていただきました。外国観光客向けのおもてなしとして、実際にまわしを締めて相撲のデモンストレーションをしたり、相撲大会の開催、九重部屋の夏合宿と、横綱の里ならではの行事も多く、

普通であれば体験出来ないような貴重な経験をさせていただきました。



又、北海道においては、九州と比べ、イベントの開催数がとても多いと感じました。

要因の1つと考えたのが、長崎県松浦市では夏場の日中は集客に影響が出るほど暑過ぎる為、夏のイベントを意図的に減らしている事があるはず。

これから涼しくなる長崎県ではイベントが始まる時期となる為、帰郷後その準備に取り掛かる事になりま

す。今年の僕は北と南で、年間を通してイベント三昧の1年だと思ふ次第であります。

休暇の際は、町民の方や、フェイスタックなどで知り合った方からのアドバイスを参考に、車で稚内や根室、羅臼まで足を延ばし、北海道を1周する感覚で遠出もしましたが、『北海道はデッサン』とは良く言ったもので、本当に北海道の広さは、九州の比にならず、身に染みて大きさを体感する事が出来ました。旅の行く先々では各市町村の観光PRや集客の為のアイディア・工夫が参考になりそうなものも多く、松浦市に持ち帰って、活用出来れば良いなと考えている次第です。

終わりになりますが、今後こういった友好市町村の交流が長く続く事を願いながら、今回出会った全ての『縁』と『経緯』を大切に